



高松高検管内広報キャラクター  
へんるちゃん

## 当庁瀬戸検事長が、香川大学法学部 “司法制度入門”で講義しました。

2月3日(火) 香川大学法学部において、  
高松高検 瀬戸 毅 検事長による「検事から見た  
刑事司法」の講義を行いました。

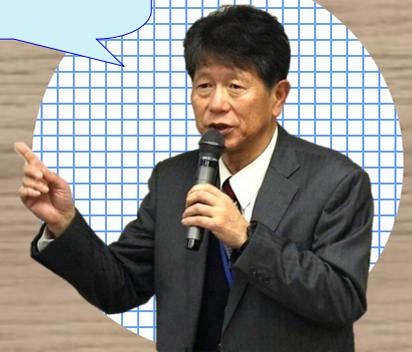
刑事司法の基礎知識として、法曹三者や検察庁  
についての説明から、捜査機関にはどのようなもの  
があるか、検察官の役割などについて話した後、  
模擬取調室の写真や、弁解録取書、起訴状の  
サンプルを示しながら刑事手続の流れ、検察権の  
行使について説明しました。

検察庁で事件の送致を受けてから、勾留、捜  
査、起訴・不起訴の判断、公判へと進む流れを、  
それぞれどのくらいの件数が処理されているの  
か、犯罪白書から引用した具体的な数字を示しつ  
つ話しました。

### ★今回の講義について★

司法制度入門は、法学部1回生を対象  
とした講義です。法律職に就いて活躍す  
る実務家から直接講義を受け、法律職を  
1つの進路として検討できるようになる  
ことを目的としています。

法律を使った仕事を  
してみたければ、是非  
検察庁にきてください!



その後は、検察権行使以外の検察官の仕事を  
紹介しました。

以前、法務省の法制審議会に関する仕事や、  
国際会議で外国との条約交渉をする仕事に携  
わっていたことから、法改正や条約交渉の場  
でどのような話がなされるのか、どのような難  
しさ、苦労があるのかなどを、当時の経験を交  
えて説明しました。

検察官、検察事務官の仕事はとても幅広く、  
捜査・公判だけではなく、法律を扱ういろい  
ろな業務があることを話しました。

ご参加ありがとうございました!

### 【学生さんの感想】

- ・ 刑事司法は人の人生に深く関わる制度であり、検察官には高い倫理観と覚悟が必要であることを学んだ。
- ・ 検察官は刑事司法の入口を誰よりも握っている存在なのだとわかった。
- ・ 検察官のキャリアの多様性、国内外での活躍の場の広さを知ることで、検察という職務の奥深さと社会的使命感の重さを強く感じた。
- ・ 刑事司法を身近な社会制度として捉え直す貴重な機会となった。
- ・ 検察官は「犯罪を追及する人」というイメージが強かったが、実際には「法制度をつくり、国際社会と協力しながら司法を発展させる存在」であることがわかり、法曹の仕事に対する視野が大きくなった。

